

東西宗教交流学会 第五回学術大会記録

(その一)

常 盤 義 伸

東西宗教交流学会日本支部会の第五回大会が一九八六年七月二一日、二二日、二三日の三日間にわたって京都市内のパレスサイド・ホテルに隣接する聖公会ビル一階会議室で開催されました。第一日は「原始仏教について」、第二日は「大乘仏教について」、第三日は「仏教とキリスト教」のテーマで、玉城康四郎先生のご講演を拝聴し、そのあとそれぞれの講演に関連して、通算二十四名の参加者の間で討論が行われました。なお討論は左記の司会者(カッコ内)のリードで各一名ずつ予め定められた質問者による質問から始められました。

講演Ⅰ 八木誠一 (常盤)

講演Ⅱ 本多正昭 (西村恵信)

講演Ⅲ 武藤一雄 (ヤン・ヴァン・ブラフト)

この大会の講演と討論の録音テープからの原稿整理の責任を常盤が引受けることになりましたが、その基礎作業になり

ます録音テープから原稿を起す最初の面倒な仕事は、奈良市の山本栄子様(八木誠一氏の御令姉)がして下さいました。山本様はこの厄介な仕事を今までずっと自発的になさって下さってきていると私は漏れ承わっています。記して感謝の意を表させていただきます。

今回は三回の講演と討論で従来より一回分多くなっており、原稿も当然枚数が一回分ふえていますので、一度の特別号に収めることはできず、分けて発表されることになりました。

それにしましても、原始仏教、大乘仏教と辿って最後に仏教とキリスト教という問題を取上げて論じて下さった玉城先生の情熱に溢れたお話を伺い、西洋・東洋の古今の宗教・哲学思想に広くしかも深い関心をもって迫り、そこに(人類的)自己の問題の究明の跡を辿って行こうとされる一人のひたむきな求道の大先輩を私たちが見、そしてその方に私たちが参じているのだという思いを禁じえませんでした。原稿

整理をさせていただき、今、当時の感銘を新たにしております。
来年夏には、土居真俊先生に参じさせていただき予定です。
なお講演Iの質問者、本多氏のお声が録音効果がよくなく、
止むをえずご発言内容は、そのあとの玉城先生のお返事の中
にまとめられてあるもので失礼ながら代用させていただきます。
また第三回講演はテープを裏返したあとと暫く録音が入っ
ていないため、常盤のメモからの再生をもとに玉城先生に簡
単にまとめていただきました。

講演・討論とも、原稿整理者、常盤の判断で相当削られて
います。ご発言者への非礼をお詫び申し上げます。

(出席者) 秋月龍珉、モリス・オーガスチン、坂東性純、
ヤン・ヴァン・ブラフト、土居真俊、藤本浄彦、ルーベン・
アビト、ジェイムス・ハイジック、本多正昭、笠井恵二、川
村永子、河波昌、武藤一雄、奈良康明、西村恵信、武田龍精、
玉城康四郎、田中裕、常盤盛伸、藪本忠一、屋宜和夫、八木
誠一、八木洋一、小島雅代(オブザーバー)。

第四回記録(『大乘禅』七四六号、一九八六年七月号)誤
字訂正 川村永子

物質まで↓物質まで↓(p.12b, l.2)

瞳孔↓瞳孔 (p.22a, l.18)

十大秘法↓十大地法 (p.23a, l.19)

イエス↓イエス・キリスト (p.27a, l.1)

分裂して、いものも↓分裂して、いものも (p.28b, l.16)
神やる↓神や子 (p.42a, l.2)
空無辺定、識無辺定、無所有処定、非想非非想処定↓「定」
を「想」に (p.54b, l.14-15)

サンギヤ↓サンニャー (ibid, l.15, l.17)
難思抄↓歎異抄 (p.59a, l.5) 以上

坐禅に
生きた
古仏耕山 加藤耕山老師随聞記

秋月龍珉・柳瀬有禅共著

¥ 一、六〇〇 千 300

長い修行の功を積み、いったんは仏になり、すっぱ
りかんと赤の凡夫に立戻られた稀有な禅僧の姿に、
宗教の本質がある——禅界の巨星。耕山老師の遍歴
と徹底した境地を聴き書きと随聞記で感動的に綴る
言行録。

千 113 東京都文京区千駄木二一八一三

柏樹社